

# アンカーネット工法



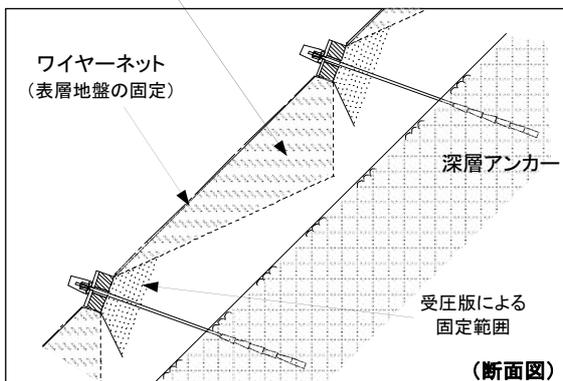
グラウンドアンカー+ワイヤーネット(土砂崩壊対策)



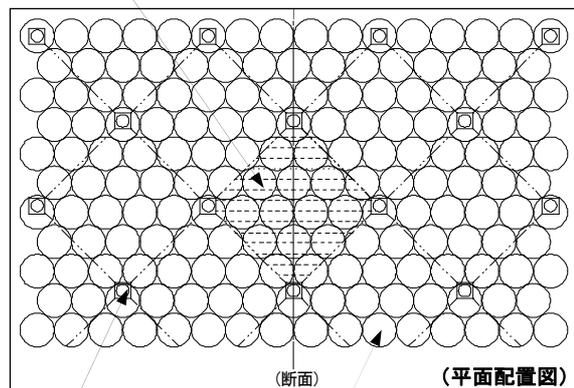
深層アンカー+ワイヤーネット(岩盤崩壊対策)

## 【抑止機構】

受圧版間をすり抜ける土塊(規模を計画的に設定可能)



受圧版間をすり抜ける表層崩壊ブロック(位置を計画的に設定可能)



### 【1. 抑止機構】

- ① 斜面のすべり全体を千鳥状に配置した受圧版と深層アンカー(引止力主体)で固定
- ② 受圧版間をすり抜ける表層崩壊はワイヤーネットで固定  
…受圧版ピッチを調整することで表層崩壊の規模を計画的に設定

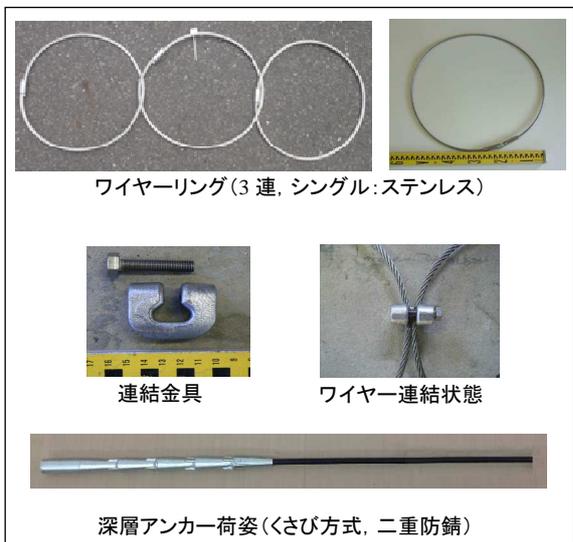
### 【2. 工法の特徴】

- ① 簡易受圧版とワイヤーネットによる固定方法のため、立木を残すことが可能
- ② 凹凸の激しい斜面でも、自在性の高いワイヤーネットで容易に被覆固定できる
- ③ はじめにワイヤーネットを逆巻きで敷設することで、作業の安全性を確保しやすい。
- ④ グラウンドアンカーを使用すれば、規模の大きい地すべり対策も可能

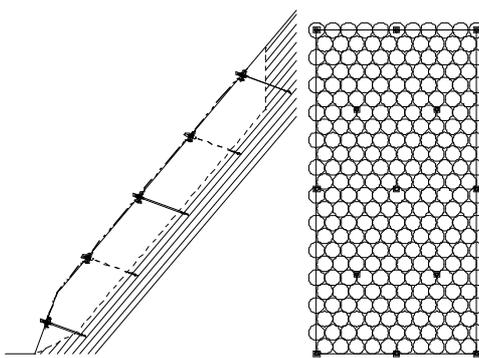
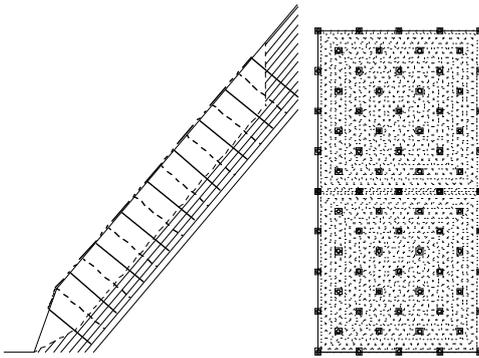
### 【3. 深層アンカーの特徴】

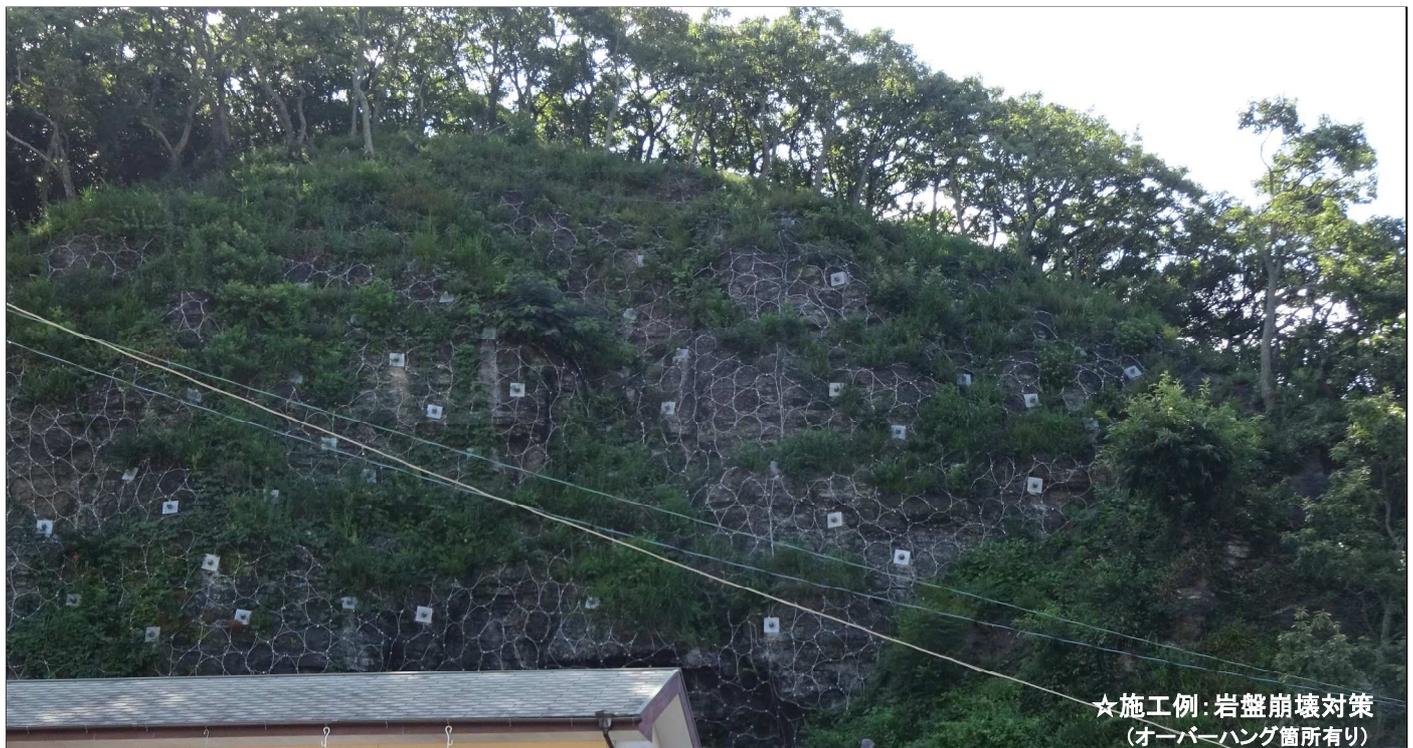
- ① くさびによるアンカー孔壁の支圧強度を利用する方式のため、大きな支持力を得られやすい(定着長を短くできる)
- ② アンカー孔壁は拘束度が高く、長期耐久性を確保しやすい
- ③ グラウンドアンカーに準じた二重防性( tendon は PC 鋼より線仕様)

### 【主要資材】



## 【工法比較】

工 法	アンカーネット工	鉄筋挿入工
標準施工図 (斜面長 16m, 層厚 2m, 傾斜 50°)		
抑止機構	全体すべりを深層アンカー(主に引止力)で, 受圧版間をすり抜ける局部的表層崩壊をワイヤーネット(引張力)で固定	主に補強材の引張力によって斜面を補強 (JH 切土補強土工法設計・施工指針 P2)
適用範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特に制約なし(規模の大きい場合はグラウンドアンカー仕様とする)</li> <li>○斜面に対して低角度でアンカーを打設するため, 変状の大きい斜面でも適用可能.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○崩壊予測斜面長 30m 以下, 崩壊深 3m 程度以下 (JH 指針)</li> <li>○移動土塊に対して引き止め力が働きにくい構造のため, 地盤の緩み等変状の大きい斜面での適用は難しい</li> </ul>
アンカー (上記モデル図対応)	深層アンカー(アンボンド PC 鋼より線 φ12.7mm) (削孔径 65mm, 削孔長 3m/本, 定着長 0.2m)	異径棒鋼 (SD345, D19~D25) (削孔径 65mm, 削孔長 3m/本, 定着長 1m)
アンカーの緊張力と抑止土塊の変位	適度な初期荷重を与えるため, 施工後の土塊の変位を防ぐことができる.	緊張しないため, 土塊の変位を許容しやすい
400m <sup>2</sup> 当たりアンカー標準密度	33 本 (16m <sup>2</sup> に 1 本)	221 本 (2m <sup>2</sup> に 1 本)
地表構造物	ワイヤーネット 400m <sup>2</sup> (φ80cm リング) 簡易受圧版 33 基	400m <sup>2</sup> (金網, ワイヤーネット, 支圧版等)



★施工例: 岩盤崩壊対策  
(オーバーハング箇所有り)

- ①はじめに, 斜面頭部に設置した深層アンカーを基礎にワイヤーネットを逆巻きで敷設し, 小岩塊の崩落を抑止
- ②次段階として, 不安定岩塊に対して直接深層アンカーを打設(千鳥設置, 逆巻施工)し, 全体を固定

## 斜 面 対 策 研 究 協 会

事務局 〒514-0815 三重県津市藤方 2254 番地 1 アルコ株式会社内 TEL:059-213-8811 FAX:059-213-8880